

医療秘書コース学生の職業意識

——医療秘書に関する意識調査から——

堀 初 子*

Occupational Consciousness of Medical Secretary Students

——from Consciousness Investigation Concerning the Medical Secretary——

Hatsuko Hori

要旨：本稿は、平成16年4月に入学した医療秘書コースの学生49名を対象に目的意識、職業意識の変化についてアンケート調査を行いまとめたものである。近年の新卒無業者やフリーターの増加についてはさまざまな要因があるが「何をしたいかわからない」、いわゆる目的が定まらないまたは目的がない若者が多いということが大きな要因のひとつであると考えられる。本コースのほとんどの学生は当初から「医療秘書になって、医療機関に就職する」という明確な目的意識、職業意識をもっている。が、数年来「進路変更」を理由とする退学者が増加傾向にあり、職場経験として重要な病院実習さえ放棄したいという学生がいる。そこで、どのようなことがきっかけで目的意識に変化が起こるのか、指導の参考とするため、在学中4回の調査を行なった。

結果として16年度生には入学当初からの目的を変更した学生は2名であった。1名は病院実習の後、「医療は難しいので企業に就職する」という理由で、もう1名は「地元で就職したいが適当な病院がないため、企業に就職する」ということであった。

Summary : The purpose of this paper is to summarise, based on the findings of a questionnaire, the changes in perception, both in terms of purpose and direction, relating to employment by forty-nine students of a medical secretary course who commenced studying in April, Heisei 16. In recent years there has been an increase in the number of new graduates without employment, or with only part-time employment. I believe that one of the major contributing factors to this is that there are many young people who have no plans regarding what kind of employment they wish to pursue, or, for whatever reason, change their initial plans regarding their employment after the commencement of their study. Almost all the students who enrol in the medical secretary course have, at the commencement of their course, a clear sense of purpose and direction regarding their future employment –that being of becoming a medical secretary and finding employment with a medical institution. Increasingly students are withdrawing from the course due to changing their employment direction, which is why some wish to avoid the practical, hospital-based component of the course. In order to establish the causes of the changes in the students' direction of future employment whilst studying, four investigations were conducted during the course. There

*関西女子短期大学 教授

were two students who changed their employment direction at the time of their admission into the April, Heisei 16, course. One of the students, who wished to be employed locally, decided to pursue employment with a non-medical company because of the unavailability of any positions in a hospital; whilst the other student decided to pursue employment with a non-medical company due to employment in the medical field being too difficult.

Key words: 若年無業者 Youth non-contractor 職業意識の育成 Training of occupational consciousness 進路変更 Course change

I はじめに

近年、フリーター¹⁾やニート²⁾と呼ばれる若年無業者が増加し、若年者の職業意識の低下や勤労意欲の低下が社会問題になっている。従来フリーターになる人々は学歴水準が低く、女性に多いとされていたが、四大志向の高まりと就職環境の悪化により、現在大卒フリーターが増加している。厚生労働省編・平成 17 年版労働経済白書によると、平成 15 年度は大卒・短大卒業生の 27.7%、すなわち卒業生の約 4 人に 1 人の割合となっている。特に新卒無業者の増加については、新卒採用を労働需要側が控えていたことや多種多様な雇用形態の増加、若者の就業観の変化等諸要因が考えられるが、「何をしたいかわからない」「目的がない」若者が多いということが大きな要因のひとつであると考えられる。

本学の校是である「感恩」に基づき、「社会に役立つ人材を育成し、社会に貢献する」ことを目的とする本コースには、専門知識や技術を身につけ、資格を活かして医療秘書として働きたいという目的意識と職業意識をもった学生が入学してくる。しかし、「進路変更」を理由として、平成 13 年度には 6 名、平成 14 年と 15 年度には各 4 名が退学した。本調査の対象となった平成 16 年度生も入学直後に 1 名退学している。さらに、医療秘書を目指す学生にとって大切な職場経験である病院実習を放棄する学生も近年増加傾向にある。進路変更に至る過程で学生が抱えている問題に早く気づき、可能な限

りその解決に努力し、学生が目的を達成できるよう支援しなければならない。

本稿では「進路変更」を「医療秘書として医療機関に就職したいという目的を変更する」こととし、平成 16 年 4 月に医療秘書コースに入学した学生を対象に、医療秘書および職業に関する意識調査を 4 回行なった。結果から進路変更にいたる要因を考察し、今後の指導の参考としたい。

II 対象および方法

1. 対象

関西女子短期大学保健科医療秘書コースに平成 16 年 4 月に入学した学生 49 名。

2. 調査時期

- 1) 平成 16 年 4 月 (入学当初)
- 2) 平成 17 年 5 月 (進級時)
- 3) 平成 17 年 9 月 (病院実習後)
- 4) 平成 18 年 2 月 (卒業前)

3. 調査方法

調査日に欠席した学生を除き、本学講義室にて調査票を配布し、各項目につき筆者が説明した後、学生が無記名で記載したものを回収する方法で行った。

III 結果および考察

1. 第 1 回目の調査から

入学後、コースの目的や教育方針、医療秘書について学内および学外のオリエンテーション

等において説明した後の調査である。当日の出席者 49 名。回収率 100%

(1) 本学の医療秘書コースを何で知ったか。

(自由記載)

本学を知ったきっかけは、「学校に置いてあったパンフレット」が多く 14 名で 28.57%、次いで「進学情報誌のリクルート進学ブック」が 9 名で 18.36% であった。「進学用のサイトで知った」学生が 7 名で、14.28%、「学校の先生に聞いた」学生は 6 名で、12.24%、「母に聞いた」学生は 5 名で、10.20% であった。学校に置いてあったパンフレットや進学雑誌或いは進学用のサイトなどと、自身で情報を得ている学生が多い。先生や母に聞いたという学生もいるが、先輩や友人に聞いたり、新聞の広告から情報を得た学生は皆無であった。

(2) 本学の医療秘書コースを受験した理由。

(自由記載)

「就職率が良いから」という意見が多かった (13 名、26.53%)。「幅広く学べる」が 10 名で 20.40%、「説明会で先生の話聞いてしっかり学べると思った」・「保健科の中の医療秘書コースだから」「近かった」が、いずれも各 7 名で 14.28% ずつであった。以下、「資格がほしかった」が 6 名で 12.24%、「伝統がある」が 4 名で 8.16% ・「この学校で学びたいと思った」が 3 名で 6.12%、「先生が熱心そうだった」・「担任の先生が進めてくれた」・「医療秘書になれると思った」が各 2 名、他に「親が進めた」「成績が合格圏だった」「医療秘書という名前にあこがれて」「経済的なこと」等の意見があった。消極的な受験動機の学生が何名かいたが、約 4 分の 1 の学生が就職率が良いという理由で本学を受験しており、受験時から就職意識をもってしている。また、説明会に参加した学生がコースの内容をある程度理解した上で受験することを決定していることが分かる。

(3) 医療秘書の仕事をどれくらい知っているか。(自由記載)

「受付」が多く、27 名で 55.10%、次いで「医療事務」が多く 16 名で 32.65% 「カルテ作成」が 11 名で 22.44%、「院長秘書」が 8 名で 16.32%、「病棟クラーク」が 7 名で 14.28%、「ドクター秘書」が 6 名で 12.24% であった。以下、医師のスケジュール管理・コンピュータ打ち込み・カルテ整理等があった。医療秘書の職種についてもおよそではあるが理解しているようである。

(4) 入学以来、医療秘書コースのことや医療秘書のことについて説明を受けたがどのように感じているか。(自由記載)

*医療秘書コースのこと

「勉強が難しそう」と答えた学生が多く 12 名で、24.48%、「厳しそう」と感じた学生が 9 名で、18.36%、次いで「時間割が思ったより楽そう」・「先生が熱心なのに驚いた」・「一般常識の勉強もしなければと思った」・「日ごろからの積み重ねが大切と思った」、がいずれも各 3 名で 6.1% ずつ、以下、「医療秘書になって病院で働けそうだった」・「これから役にたつことをたくさん学べそうで嬉しい」・「医療秘書のことがよくわかった」・「充実した学生生活が送れそうだった」・「軽い気持ちでいてはいけないと思った」等の意見があった。「厳しそう」や「難しそう」という不安を感じる意見が多かったが、これからの学生生活への期待と、医療秘書になるという将来に向けての希望を達成したいという強い意欲が窺える。

*医療秘書のこと

「思っていたより仕事が多い」と感じた学生が多く、18 名で 36.73%、「やりがいある仕事で絶対になりたいと思った」学生が 5 名で 10.20%、次いで「思ったより大変そう」(4 名、8.16%)、「資格をしっかりとる」(3 名、6.12%) であった。以下、「頑張らないと病院に就職できないと思った」・「大事な仕事だと思った」・「頭をつかう仕事だと思った」・「目的をしっかり持たないと就職できないと思った」・「責任ある仕事だと思った」・「医療秘書に絶対になりたいと思

った」・「幅広い知識が必要だと思った」等の意見があった。「医療秘書」について漠然とではあるが理解できているように思われる。かなり努力を要するが、医療秘書になるという強い意志が窺える。「思ったより大変そう」と感じた学生が 4 名いるが、これらの学生は多少不安を感じ始めていると思われる。したがって早いこの時期から継続して的確な指導が必要であると思われる。また、「就職してからでも大変だと思った」というような就職の希望業種の変更を考えるような意見もあった。

(5) 今、医療秘書になりたいと思っているか。

(1. 2. 3. 4. から選択)

1. 強く思っている (28 名、57.14%)
2. 思っている (19 名、38.77%)
3. あまり思わない (2 名、4.08%)
4. 思わない (0 名)

「医療秘書」のことが一応理解できた上での意見である。医療秘書になりたいと思っている学生は 1 と 2 を選択した学生を合わせると 47 名で 95.91% である。ほぼ全員が「医療秘書になりたい」という意志をもって学習していることがわかる。しかし、入学して間もないこの時期に早くも「医療秘書になりたいとあまり思わない」と答えた学生が 2 名いる。「あまり思わない」を選択した学生の理由は無回答であった。

2. 第 2 回目の調査から

2 年次に進級してすぐの時期に行った調査である。当日の出席者は 45 名。回収率は 100%。

(1) 就職について考えているか。(1. 2. から選択)

1. はい (45 名、100%)
2. いいえ (0 名)

全員が就職について考え、就職したいという意志をもっている。

(1) - 2 (1) の問いで「はい」と答えた学生が希望する業種と職種。(自由記載)

総合病院の医療事務 (20 名、44.44%) が多かった。次いで総合病院のクラーク (8 名、17.77%)、歯科・眼科などの受付や事務 (6 名、13.33%)、総合病院の受付 (4 名、8.88%)、医院の医療事務 (3 名、6.66%) で、精神科の医療事務・こども病院の医療事務・銀行の受付や事務・企業の事務が各 1 名であった。

精神科に就職したいという学生は珍しく、今までいなかったが、精神病の患者が増加傾向にある近年の医療環境が要因になっているものと考えられる。この時点で企業に就職を希望している学生が 2 名いた。

(1) - 3 (1) - 2 で答えた業種・職種は以前から変わったかどうか。(1. 2. 3. から選択)

1. 「入学前から変わっていない」(22 名、48.88%) という学生が多く、次に 2. 「入学してから変わっていない」(11 名、24.44%) であったが、3. 「変わった」という学生が 12 名で、26.66% いた。

1 と 2 を選択した学生は 33 名で 73.32% であった。約 4 分の 3 の学生が、入学前或いは入学以来職業に関する意識は変わっていない。

(1) - 4 (1) - 3 で変わったと回答した人はいつごろから、どのように、なぜ変わったのか。(自由記載) 3 名無回答だった。

- ①1 年の秋ころ 総合病院から個人病院にいろいろな仕事をしたから
- ②1 年の終わりころ 一般病院から歯科医院に 歯科医院でバイトをしたから
- ③1 年の終わりころ クラークから医療事務に 仕事の内容を知ってから
- ④1 年の終わりころ 企業秘書から医療秘書に 医療の学習をして生かしたいと思ったから
- ⑤2 年生になったころ 総合病院から診療所に いろんなことができるから
- ⑥2 年生になったころ 総合病院から精神病院に 精神の不安定な方を助けてあげたいと思った
- ⑦2 年生になったころ 診療所から総合病院

に 親との話し合いの結果

⑧2年生になったころ 診療所から総合病院に 保険等がきっちりしているから

⑨2年生になったころ 企業から病院に 自分は何のためにこの学校にきたのか考えたから

希望していた業種或いは職種に変更のあった学生の内容についてはほとんどが医療機関の種類の変更であった。その理由から、1年次に学習した科目の中でも特に筆者の担当する医療秘書概論の科目や、総合ゼミの時間等でのゼミ教員の指導が影響を与えた結果ではないかと考えられる。2年生の5月ころから本格的な就職指導を開始するのでこの時期に職業について目的がはっきりしている学生が多いことは好ましいことである。

(2) 医療秘書の職種をどれだけ知っているか。

(自由記載、複数回答)

クラーク 30名、医療事務 24名、受付 23名、院長秘書 10名、ドクター秘書 4名、会計 2名、診療録管理士 1名

医療秘書の職種も入学当初の調査よりかなりの確に理解できていると思われる。

(3) 「夏期休暇中の病院実習」についてどのように思っているか。(1. 2. 3. から選択)

1. 楽しみにしている (10名、22.22%) 2. 少々憂鬱 (33名、73.33%)。3. 行きたくない (2名、4.44%) であった。

前向きで積極的な学生は「楽しみにしている」と回答しているが、約4分の3にあたる学生が「少々憂鬱」だと感じている。「行きたくない」と回答した学生も2名いる。病院実習については、その目的や重要性、実習中の注意事項等を、実習前のオリエンテーションや事前講義で或いはゼミ教員が日常の指導で繰り返し充分説明し、理解が得られているものと思っていたが、一部の学生には不安を与え、逆効果になっている可能性も考えられる。

(3)-2 (3) で2を選択した学生の理由。(自由記載) (無回答4名)

「不安」と答えた学生が多く、26名で57.77%、「少し怖い」・「長期間で大変そう」「自信がない」が各1名ずつであった。

短大での学習は1年を経過しただけあり、「不安」とか「自信がない」と回答した学生の意見はもともとであるが、積極的な態度で臨むことが実習の効果を得るには必要であり、個々の資質に応じた指導が必要である。

(3)-3 (3) で3を選択した人はその理由を書いてください。(回答者は0名)

3. 第3回目の調査から

2年次の病院実習後である。当日の出席者は41名。回収率は100%。

(1) 実習病院の種類。(自由記載)

総合病院 (40名、97.56%) 医院 (1名、2.43%)

実習病院の選択についてはできるだけ多くのことを体験できるように総合病院を選択するように指導している。

(2) 通勤時間はどれくらいか。(1. 2. 3. から選択)

1. 30分以内 (31名、75.60%)

2. 1時間以内 (9名、21.95%)

3. 1時間以上 (1名、2.43%)

実習は夏期休暇中の4週間であるため、心身の健康管理を考慮し、実習病院はできるだけ自宅から無理なく通える距離であることが望ましいと指導している。

(3) 実習させていただいた主な部署。(自由記載で複数回答)

医事課 (28名、68.29%) 各科の外来受付 (6名、14.63%) 入院受付 (5名、12.19%)

初診受付 (5名、12.19%) 病棟クラーク (4名、9.75%)、リハビリステーション (3名、7.31%) 以下、病歴室、薬局、医学資料室、総務課、庶務課が各2名、放射線科が1名であった。

病院実習ではいろんな部署で実習させてもらっている。医療機関に就職を希望する学生にと

って現場の経験は必要不可欠で大変重要である。学生もよく理解しているようで4週間の実習中、遅刻・早退・欠席者はほとんどいない。

(4) 病院または医院の業務は想像していたことと同じだったかどうか。(1. 2. 3. から選択)

1. 思っていたとおりだった (2名、4.87%)
2. ほぼ同じだった (34名、82.92%)
3. 大きく違っていった (5名、12.19%)

1と2を選択した学生は、36名で87.79%であり、ほとんどの学生が、病院の業務については想像していたこととほぼ同じだったと感じている。

(4)−2 (4) の問いで1を選択した人の理由。(以下記載のまま)

- * 病院はとても忙しく大変な仕事だと思った。しかし、やりがいがあると思った。
- * 応対の仕方など授業で習ったことを完璧に自分のものにならなければならないと思った。

(4)−3 (4) の問いに3を選択した人の理由

- * 医療秘書は大変よく動く仕事で体力がないと続かないと思った。
- * 医事課では患者様と接することは少なかった。
- * 主として、データ管理や修正だったが医療に関する知識が必要だと思った。
- * 思っていたより忙しかった。
- * 職員の人の能力の高さに驚いた。
- * 会計などが自動の機械になっていた。

病院によって実習内容が異なるが、4の設問で他(1または2)を選択した学生も少なからず同じようなことを感じていたのではないかと思われる。机上の学問だけでなく、やはり現場実習でないと実際のことは分からないと感じたと思われる。

(5) 実習中に接遇・応対面で特に注意を受けたこと。(以下自由記載)

- * ゆっくり、はっきりしゃべるように (9名、21.95%)
- * 大きな声で (8名、19.51%)

* 笑顔で (5名、12.19%)

以下各1名づつ

- * ひとりひとりにはっきり挨拶すること
- * 患者様に積極的に声かけすること
- * 患者様にやさしく接すること
- * 用件を最後までしっかり聞くこと
- * 敬語の使い方がおかしい

(6) 実習中に業務面で特に注意を受けたこと

- * 確認は必ずすること (11名、26.82%)
- * 聞いて正確な仕事をする (5名、12.19%)
- * 報告・連絡・相談をきちんとすること (2名、4.87%)
- * 患者様の名前はフル・ネームを聞くこと (2名、4.87%)

以下各1名づつ

- * わからないことを聞かれてもおどおどしない
- * 職員さんよく見て真似る
- * 指示を受ける前にできることは進んでする
- * 保険証は変更がないか必ず確認すること
- * カルテを戻すときに他の人のものが入っていないか確認すること
- * いつも患者様から見られていると思うこと
- * それなりにスピードが必要
- * 自己の判断で行動しない
- * 効率的な仕事の方法を考えること
- * あせらないこと

接遇・応対面で受けた諸注意から、医療機関は「患者様を大切に考えるサービス業」であり、話し方やコミュニケーションのとり方をさらに学習しなければならないこと、また、業務上受けた注意点からは、何の業種・職種にも必要な業務上の基本にプラス医療秘書に必要な専門的事項があることを改めて理解できたと思われる。

(7) 実習病院で就職したいと思うか。(1. 2. 3. から選択)

1. はい (16名、39.02%)
2. どちらでもよい (16名、39.02%)

3. 思わない (9名、21.95%)

1または2を選択した学生は32名で78.04%であった。

実習生の立場と正職員として勤務する場合の立場の違いをよく理解しているか否かは疑問であるが、実習させていただいた病院に就職したいと4分の3以上の学生が感じている。

(7)–2 (7)の質問で1を選択した人の理由。

(以下自由記載)

- * 病院の雰囲気にも慣れ、職員の方が話しかけてくださるようになった (7名、17.07%)
- * 人間関係が良く、少人数でやりがいがあり、働きやすい環境だと思った (3名、7.31%)
- * 最新のシステムだった (2名、4.87%)

以下、各1名ずつ

- * 交通の便利が良い
- * 患者様に対する態度がとても良く、自分もあのようになりたいと思った
- * 院内のどの職種の人も仲良く楽しそうに働いていた

人間関係がよく、やりがいがあり、楽しく働くことが出来る職場環境で働きたいという意識がはっきりしている。

(7)–3 (7)の質問で3を選択した人の理由。

以下各1名ずつ

- * 自分の病院の悪口を言っていたから
- * 挨拶をしても返してくれなかった
- * 実習中、態度が冷たかった
- * 雰囲気が悪かった
- * 同じことばかりした
- * 個人病院を希望しているから

コミュニケーションがうまくとれていない、冷たい雰囲気の職場で働きたくないという気持ちが明らかになっている。

(8) 病院実習後自分が変わったと思うこと。

- * 笑顔が自然にできるようになった (6名、14.63%)

以下各3名で7.31% ずつ

* 敬語の使い方が上手になった

* 相手の気持ちを考え、行動できるようになった

以下各2名で4.87% ずつ

- * 人との対応が積極的にできるようになった
- * かなり勉強しないと大変だと思った
- * 敬語や丁寧なことばづかいを心がけるようになった

以下各1名ずつ

- * 規則正しい生活ができるようになった
- * 仕事が大変だということがわかり、父との会話が増えた
- * 働くことの厳しさがよくわかった
- * 集中力がついたように思う
- * 精神的に強くなり、責任感も強くなったように思う
- * 優先順位を考えるようになった
- * より医療に興味をもち、就職を真剣に考えるようになった
- * 工夫して話すようになった
- * 確認をするようになった

以上「自分が変わった」と思うことの記載からは、基本のビジネスマナーが理解でき、実践できるようになって、学生が大きく成長し、社会人に一歩近づいた様子が窺える。これらのことは今後、自信に繋がるものと考えられる。また「仕事が大変だということがよくわかり、父との会話が増えた」という記載から、父親の職場での立場や人間関係の難しさ等を理解できるようになり、話題が増えたと同時に、人を思いやるやさしい気持ちが芽生えたことが推測され、精神面での大きな成長も窺える。

(9) 実習終了後も病院に就職したいと思っているか。(1. 2. 3. から選択)

1. 思っている (34名、82.92%)
2. どちらでもよい (5名、12.19%)
3. 思わない (2名、4.87%)

「思っている」と回答した学生が多い。1または2を選択した学生は合計39名で95.11%である。病院実習終了後の意見であり、今まで

より一層目的を達成する意志は強くなっているものと考えられる。

(9)−2 (9) の質問で 1 を選択した人は入学以来その気持ちは変わっていない (1. 2. から選択)

1. はい (34 名、100%)
2. いいえ (0 名)

実習後も病院に就職したいと思っている学生は、全員入学以来その意志を持続していたことになる。

(9)−3 (9) の質問で 3 を選択した人の理由。(自由記載)

- * 企業に勤めたいから。(医療は難しそう)
- * 地元に戻って就職したいが、近くに適当な医療機関がなかったので企業にした。

ここで目的を変更したい学生の理由が回答欄に記載された。医療の現場で実際の業務を観て、実習し、人間関係やその他のことから「医療は難しそう」と感じたのであろう。本コースには地方の学生が例年 1〜2 割入学してくる。地方での就職活動の方法は指導するが、ご家族の協力を得て、近隣の病院の採用状況などを把握してもらっているというのが実情である。少人数とはいえ、本学に期待してくる地方の学生のための就職先の開拓も必要である。

4. 第 4 回目の調査から

卒業を目前にした時期である。当日の出席者 43 名。回収率 100%

(1) 就職は内定したかどうか。(1. 2. 3. から選択)

1. はい (38 名、88.37%)
2. 結果待ち (3 名、6.97%)
3. 活動中 (2 名、4.65%)

(2) 内定した人はどのような業種ですか。(自由記載)

- 総合病院 (24 名、63.15%)
- クリニックまたは診療所 (12 名、31.57%)
- 企業 (2 名、5.26%)

(3) 内定したのは希望していた業種かどうか。

(1. 2. から選択)

1. はい (31 名、72.09%)
2. いいえ (7 名、16.27%)

希望していた業種ではないところで内定している学生が 7 名いる。卒業間近になっても内定していないため焦り、希望の業種以外を受験したものと推測する。医療機関からの求人は企業の求人よりも約半年遅い。短期大学生の就職活動期間は短期間であるが、医療機関への就職活動はさらに短期間に集中する。よって卒業間際まで内定しない学生が例年何名かおり、このような結果になることがある。学生支援センターと連携を図り学生に適切な指導を行わなければならない。

(3)−2 (3) で 2 を選択した人が希望していた業種は何か。(自由記載)

企業 (1 名のみ回答)

(4) 就職活動は 2 年生のいつごろから開始したか。(自由記載)

- 5 月 (12 名、27.90%)
- 7 月 (8 名、18.60%)
- 6 月 (6 名、13.95%)
- 8 月 (5 名、11.62%)
- 9 月 (3 名、6.97%)
- 4 月 (2 名、4.65%)

次いで 2 月と 11 月が各 1 名、「希望病院の求人票がきてから」が 1 名、無回答が 4 名だった。

2 年次の 5 月から就職指導を開始するが、4 分の 1 強の学生がすぐに就職活動を開始している。4 月から開始した学生はたぶん企業での受験者であると思われる。夏期休暇中は病院実習があるので出来るだけ早く開始するよう指導するが翌年の 2 月にやっと始めた学生もいる。

(5) 就職指導は的確に行われていたか。(1. 2. 3. 4. から選択)

1. 的確だった (15 名、34.88%)
2. まあ的確だった (22 名、51.62%)
3. あまり的確でなかった (5 名、11.62%)
4. 的確でなかった (0 名)

無回答1名であった

1と2を選択した学生は37名で86.50%である。近頃ではインターネットを活用した募集、採用が増えてきている。就職活動の開始時期や方法、考え方等も再考する必要がある。インターネットの募集には誰でもアクセスできる公平さがあり、しかも容易であるが、医療秘書は一種の専門職であるところから、歴史と実績がある本学にいただく求人を重視するほうが合理的であると考えている。

(6) 指導を受けたとおりに就職活動をしたか。

(1. 2. 3. から選択)

1. はい (19名, 44.18%)
2. まあまあした (21名, 48.83%)
3. しなかった (3名, 6.97%)

1と2を選択した学生は40名で92.01%である。就職に関しては、特に短大の学生はなかなか1人では活動できないため時間をかけての細やかな指導が必要である。就職先を決定するときも本人と親との病院に対する価値観の相違から指導は困難を極めることがある。

(7) 就職の相談は主に誰にしたか (自由記載)

ゼミの先生 (23名, 53.48%)

友人 (10名, 23.25%)

両親 (21名, 48.83%)

学生支援センター (1名, 2.32%)

ゼミの先生に相談した学生が多かったが、特に短大生は友人よりも両親に相談することのほうが多いようである。

Ⅳ まとめ

本調査4回の内、全員が調査対象となったのは第1回目のみということで、平成16年度生全員の意を表すにはやや不十分と思われる。

入学当初から、2名が「医療秘書になりたいとあまり思わない」と答えている。2回目の調査でも企業に就職を希望する学生が2名、病院実習後、「病院に就職したいと思わない」学生が2名いた。各調査時において2名の学生が病院に就職したくないという意思表示をしてい

る。第1回目の調査で本コース受験の理由を尋ねる質問に、「近い」「親が進めた」「成績が合格圏であった」など本コースを受験するには消極的な受験動機の回答があったが、たぶんこれらの学生が当初からはっきりした目的がないまま入学してきたものと推測する。2回目の調査で「企業秘書から医療秘書に」「企業から病院に」希望業種を変更した学生が2名いたが、いずれも本コースに入学した目的を再認識したようで望ましいことである。筆者は、1年次に学科必修科目が多く、難しくついていけないと学生が感じた時期と、4週間の病院実習で初めて知った病院の実際と、自身が思い描いていた病院とのギャップに悩んだ学生の何名かに意識の変化があるものと考えていた。しかし、病院実習後に「医療は難しい」という理由で1名、「地元で就職したいが病院がない」という理由で1名、合計2名が進路変更をしたのみで、表1に示すように、他の学生には各回の調査において顕著な意識の変化は認められず、95%以上の学生が医療秘書としての目的意識、職業意識を持続していた。

表1 平成16年度生の目的意識の変化 (Q 質問
A 回答)

1回目の調査 (入学当初) Q. 医療秘書になりたいと思っているか A. 強く思っている 思っている	57.14% 38.77% 計 95.91%
2回目の調査 (2年生に進級時) Q. どんな業種に就職したいか A. 総合病院・医院 (眼科・歯科)	95.52%
3回目の調査 (病院実習後) Q. 病院に就職したいと思っているか A. 思っている どちらでも良い	82.92% 12.19% 計 95.11%
4回目の調査 (卒業前) Q. 現在内定している人の業種は何か A. 総合病院・クリニック・診療所	94.72%

V 課 題

短期大学生の場合、入学してから就職活動を開始するまで 1 年と 1、2 カ月しかない。まったく目的の定まっていない学生に、医療秘書として医療機関に就職するという意識づけをし、それを就職決定時まで持続させることは容易なことではない。当然のことであるが、医療秘書養成のコースとしてカリキュラムは編成され、講義は進められる。病院実習があり、医療秘書に関する諸検定があり、ゼミや特別講義の時間も医療関係の話が多くなる。「医療」や「医療秘書」にまったく関心がなければ、日々の講義は難しく、目的を同じくする友人もできず、生活指導も厳しく感じられ、すぐにでも進路変更を考える結果になると思われる。高校時代から医療に関する時事問題に関心をもったり、医療秘書の仕事を理解するなど、僅かでも知識や情報を得た上で入学すれば、進路変更で悩むことも少ないのではないかと考える。少しでも早く、例えば高校生の内、将来何をしたいのかという職業意識の育成が行われることを期待する。「入学すれば学校が何とかしてくれる」または「何とかなる」ではなく「医療秘書になるために学習し、医療機関に就職する」という自身で明確な強い目的意識をもって入学してもらいたい。

早い時期から目的が明確であれば新卒無業者やフリーターになる可能性は極めて低いという

持論のもと、目的が定かでない学生への進路指導、或いは目的を変更したい学生の問題に早く気づき、でき得る限りその解決に努力し、個人に応じた適切な教育および指導を心がけなければならないと考えている。

特に、社会人になる直前の教育機関における就職指導やキャリア教育は、学生の目的意識や職業意識にかなりの影響を与えることを、関係教職員は自覚することが肝要である。

注

- 1) (自由であることを、或いは自由な時間を確保しようとして) 定職につかずアルバイトで生計を立てる人。日本で Free と Arbeiter とを合わせて作った「フリーアルバイター」の略(岩波国語辞典より)
- 2) 無職の人。無業者。職業にも学業にも職業訓練にも就いていない(就こうとしない)人のこと。Not in Employment, Education or Training の頭文字をとっている。(三省堂「デイリィー新語辞典」より)

参考文献

- 東 清和・足立智子編著：大学生の職業意識の発達、学文社(2003)
- 谷内篤博：大学生の職業意識とキャリア教育、勁草書房(2006)
- 本田由紀：若者と仕事、東京大学出版会(2005)
- リクルート「フリーアルバイター白書」(1988)
- 厚生労働省編「平成 17 年版労働経済白書」
- 厚生労働省編「雇用管理調査」(2004)

平成 16 年 4 月 12 日

医療秘書コース学生の目的意識に関するアンケート調査 ①

次の各質問に○印、または記載して答えてください。

1. 本学の医療秘書コースを何で知りましたか。
2. なぜ本学の医療秘書コースを受験しましたか。
3. 医療秘書とはどのような仕事をすると思いますか。知っているだけ書いて下さい。

堀 初子：医療秘書コース学生の職業意識

4. 入学以来、医療秘書コースのことや医療秘書について説明を受けてきましたが、どのように感じましたか。思ったことを書いて下さい。
- (ア) 医療秘書コースのこと
- (イ) 医療秘書のこと
5. 今、あなたは医療秘書になりたいと思っていますか。
- 1 強く思っている 2 思っている 3 あまり思わない 4 思わない
6. の質問で3または4に○をつけた人にお尋ねします。その理由を書いて下さい。
入学前から医療秘書になるつもりがなかった人はそのように書いて下さい。
7. あなたは老人病院や福祉施設に関心がありますか。
- 1 大いにある 2 まあまあある 3 ない

ご協力ありがとうございました。

平成 17 年 5 月 24 日

医療秘書コース学生の目的意識に関するアンケート調査 ②

次の各質問に○印、または記載して答えてください。

1. あなたは就職について考えていますか。
- 1 はい 2 いいえ
- 1-2 1. で1を選択した人はその業種・職種を書いて下さい。
- 1-3 その業種・職種は以前から変わっていませんか。
- 1 入学前から変わっていない 2 入学してから変わっていない
3 変わった
- 1-4 1-3で3を選択した人は
いつ頃から()どのように()
なぜ変わったか()
- 1-5 1. で2を選択した人はその理由を書いて下さい。
2. 医療秘書の職種を知っているだけ挙げてください。
3. 夏期休暇中の病院実習についてどのように思っていますか。
- 1 楽しみにしている 2 少々憂鬱 3 行きたくない
- 3-2 3. で2を選択した人はその理由を書いて下さい。
- 3-3 3. で3を選択した人はその理由を書いて下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成 17 年 9 月 26 日

医療秘書コース学生の目的意識に関するアンケート調査 ③

次の各質問に○印、または記載して答えてください。

1. 実習させていただいた病院の種類についてお尋ねします。
1 総合病院 2 医院 3 その他
2. 通勤時間はどれくらいでしたか。
1 30分以内 2 1時間以内 3 1時間以上
3. 実習させていただいた主な部署を書いて下さい。
1 2 3
4. 病院または医院の業務はあなたの想像していたことと比較してどうでしたか。
1 思っていた通りだった 2 ほぼ同じだった
3 おおきく違っていた
- 4-2 4. の問いに 1 を選んだ人にお尋ねします。どのようなことが思ったとおりでしたか。具体的に書いて下さい。
- 4-3 4. の問いに 3 を選んだ人にお尋ねします。どのようなことが違っていましたか。具体的に書いて下さい。
5. 実習中に遭遇・応対面で特に注意を受けたことを書いて下さい。
6. 実習中に業務面で特に注意を受けたことを書いて下さい。
7. あなたは実習病院で就職したいと思いませんか。
1 はい 2 どちらでも良い 3 思わない
- 7-2 7. の質問で 1 を選んだ人にお尋ねします。そう思った理由を具体的に書いて下さい。
- 7-3 7. の質問で 3 を選んだ人にお尋ねします。そう思った理由を具体的に書いて下さい。
8. 病院実習を終えてあなたは自分がどのように変わったと思いますか。具体的に書いて下さい。
9. 就職活動も始まっていますが、病院に就職したいと思いませんか。
1 思っている 2 どちらでも良い 3 思わない
- 9-2 9. で 1 を選んだ人にお尋ねします。入学以来病院に就職したいという気持ちは変わりませんでしたか。
1 はい 2 いいえ

堀 初子：医療秘書コース学生の職業意識

9-3 9. の質問で3を選んだ人はその理由を書いて下さい。

9-4 9. の質問で③を選んだ人はいつ頃からなぜそのように思うようになったか具体的に理由を書いて下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成 18 年 2 月 13 日

医療秘書コース学生の目的意識に関するアンケート調査 ④

次の各質問に○印、または記載して答えてください。

1. 就職は決まりましたか

1 はい 2 結果待ち 3 活動中

・1を選んだ方は2.3.に進んでください。

・2または3を選んだ方は4.に進んでください。

2. 内定したのは次のどれですか。

1 総合病院 2 クリニックまたは診療所 3 企業 4 その他 ()

3. 内定した就職先はあなたが希望していた業種ですか。

1 はい 2 いいえ

3-2 3. で2を選んだ方にお尋ねします。

希望していた業種は何でしたか。

4. 就職活動は2年生の何月頃から始めましたか。

5. 就職指導は的確に行われていたと思いますか。

1 的確だった 2 まあ的確だった 3 あまり的確でなかった 4 的確でなかった

5-2 5. で4を選んだ方にお尋ねします。

どういうところからそのように感じましたか。

6. あなたは指導を受けた通り就職活動をしましたか。

1 はい 2 まあまあした 3 しなかった

6-2 6. で3を選んだ方にお尋ねします。

なぜしなかった(或いはできなかった)のですか。理由を教えてください。

7. 就職についての相談は主に誰にしましたか。

1 ゼミの先生 2 友人 3 両親 4 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

